

目指す学校像	「古くて新しい植竹中の創造」～わかる授業 明るい学級 夢を育む学校～		
重点目標	1 生徒の能力を引き出し、内容の定着を図る「わかる・できる」授業の展開 2 安全・安心で豊かな学校づくりの推進・整備 3 地域に根ざし、信頼される学校づくり（コミュニティスクール）の推進 4 働き方改革を踏まえた、チーム「うえたけ」のバージョンアップ		

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	学力向上に関する取り組み (現状) ○全国学力・学習状況調査では、全国平均よりポイントが国語(6.2)、数学(10)、英語(11.4)上まっている。 ○中学校入学段階で、基礎学力の定着状況に大きな個人差がみられる。 ○端末の活用状況は、昨年12月段階で「週3回以上」の生徒が80.6%(市平均75.1%)である (課題) ○学習において小学校との連携を進める上で、本年度も継続して、合同研修会の開催内容及び情報の共有化を行う必要がある。 ○大規模校のため、通信環境が悪く、学年全体や全校生徒が一斉にタブレットを使うことができない。また修繕にかかる日数が長い。	・情報端末の活用と学びの自律化における授業改善 ・ICT機器の利用方法を生かした学力の向上	①小・中合同研修会を8月に開催し、各教科でタブレット活用研修の実施。 ②「個別最適化」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業に向けて、ICT(タブレット)を効果的に活用した授業の実践	①教職員の研修後の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ②教職員の実践後の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	①小・中合同研修会において、各教科それぞれの良い点、改善点及び有効的な活用方法を学び合う機会となり、80%以上の肯定的な回答を得ることができた。 ②※3月初旬に検証予定	A	・小・中合同の研修会においては、相互に取り組んでいる内容を把握し合うことで、新たな発見やヒントを得ることができたので、継続して研修を行う。 ・ICTの活用については、年々新化し続けている現状を常に把握し、実態に合った教育活動を継続して行う。 ・通信環境については、昨年よりも改善することができたが、まだ不十分であるため、継続して修繕の要請を行い、環境整備に努める。	学校運営協議会による評価 実施日令和7年2月20日 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 ・全学年の授業を間近で参観することができた。先生方の真剣に授業をしている姿、生徒たちが集中して授業に取り組んでいる様子が素晴らしい。 ・資料を事前に郵送してもらえる確認できるのでありがたい。 ・教職員の皆様に対して、もっと自信を持っていただきたいと思う。全体的に評価は「A」でよいと考えている。 ・現在タブレット端末の持ち帰りができていないので、検討してほしい。
2	安心・安全に関する取り組み (現状) ○学校評価アンケートにて、「避難訓練や授業等により、安全面について、意識が高まっていますか」の質問に対して、生徒の肯定的な回答が93%と高い数値が出ている。 ○「So-1aの一む」を設置し、教室に入れない生徒の学びの場として活用している。 ○教職員、生徒の事故防止のための取り組みが進められている。 (課題) ○特別教室棟(理科室・技術室・調理室)の老朽化が進み、改築が必要である。 ○「So-1aの一む」を次へのステップアップをする場としての工夫、改善が必要である。 ○大規模校としての特別教室の改築は喫緊の課題である。 ○教職員、生徒の安全に対する意識と技術をさらに高めていく必要がある。	・一人ひとりの生徒に対しての細やかな教育支援に対応した行内体制の充実 ・学校施設の改修計画の策定 ・安全、安心な学校づくりの推進	①避難訓練等を通じて、目的を明確にし、自助・共助の意識付けを進めている。 ②生徒指導、教育相談委員会での個人データを蓄積できるファイルを作成し、3年間を通して支援ができる体制づくりを進める。 ③学習室利用の生徒に対しての学びの補償としてSAの配置、安全管理として地域のボランティア人材の活用をさらに進める。	①個人データファイルの作成ができたか。 ②生徒指導、教育相談委員会での個人データを蓄積できるファイルを作成し、3年間を通して支援ができる体制づくりを進めることができたか。 ③地域ボランティアとの情報交換打ち合わせを学期に最低1回開催できたか。	①作成することができた。 ②ファイルは、修正等を加えながら作成し、活用することができた。 ③情報交換については、随時必要に応じて行うことができた。	A	・避難訓練については、千人を超える生徒数ではあるが、訓練の意義を捉えて取り組むことができていて、次年度以降も自助、共助の意識を高めていく。 ・So1aの一むの活用について、見直しを行い、より活用しやすい環境づくりを行う。	・植竹中の sola 一むの利用状況について学校運営協議会の方々も理解されている。特にボランティアの支援が非常に手厚く、他校ではなかなか見られない取組である。 ・sola 一むの使い方については、さらなるバージョンアップが必要である。利用者一人ひとりのニーズが異なるため、ボランティアの面談を通じて個別対応を強化することが求められる。 ・守秘義務があるため、ボランティアを簡単に増やすことは難しい。誰でもよいというわけではなく適切な人材を選ぶ必要がある。実際には行政が人を増やすべきであり、学校に丸投げの状態であると感じる。
3	地域とともにある学校づくりに関する取組 (現状) ○全国学力・学習状況調査において「地域の行事に参加していますか」の質問に対し、全国平均を10.2ポイント下回っている。 (課題) ○部活動が盛んなため、なかなか地域行事に参加できない状況にある。 ○学校支援組織(PTA・後援会)明確にし、地域の協力も得られる体制づくりに移行していく必要がある。	・自校文化における魅力発信及び開かれた学校づくりの推進 ・PTA、後援会、地域との密接な関係づくりの構築	①コミュニティスクールとして、積極的に生徒の地域行事参加を募り「地域の一員」としての誇りを持たせる。 ②学校環境整備ボランティア(旧親父の会)を募り校内環境の整備を推進する。 ③PTAと後援会の組織、充実を図り、生徒の安全及び生徒の活躍の奨励、広報活動を強化し、地域に発信するとともに協力体制を強化する。	①学校評価アンケートにおいて保護者、生徒の肯定的な回答の割合が85%以上となったか。 ②地域行事参加生徒が、延べ300人以上となったか。	①肯定的な回答が86%となり、目標を達成することができた。 ②地域行事参加生徒が、延べ300人以上となり、目標を達成することができた。	A	・避難所運営訓練に、本校生徒ボランティアが30名ほど参加し、AEDの利用方法を講師として地域の方に講習することができたので、次年度も継続していく。 ・地域の夏祭りの神輿担ぎや、子ども音楽会等の行事に生徒が多数参加し、積極的に交流することができたので、次年度も継続していく。 ・学校環境ボランティアについては、今後も広報活動を継続して行い、広く協力を得られるよう、改善していく。	・環境整備ボランティアについては、学期に1回できるよい。日程を年度当初に決めてしまえばよいと考える。体育祭前、落ち葉が多い季節、卒業式前がよい。子どもたちも参加できる機会を増やす、例えば参加する部活を決めてもよいのでは。PTAのほう为学校にきているので、ここをやったほうがよいところ決めてもらうとよい。 ・わかたけスマイルフェスティバル等に公民館や後援会との共催行事や、夏祭り、避難所運営訓練における地域住民と生徒の関わり等、学校と地域との連携をさらに効果的に進めてほしい。
4	教職員の資質向上に関する取組 (現状) ○ICT活用に関する研修会をエバンジェリストを中心に進めている。 ○ストレスチェックの結果は良好だが、「負担や多忙感を感じている割合が90%と高い。(市平均88.3%) (課題) ○ICTの活用についての教員間、教科間の差が大きい。 ○経験値の差から、部活動、校務分掌や学年分掌の力量に偏りがみられる。	・働き方改革を踏まえた居心地の良い、チーム「うえたけ」のバージョンアップ	①情報端末やアプリの効果的な活用方法についての研修会を定期的に進める。 ②自己評価シートにおける行動プロセス評価の視点を理解し、キャリアnaviを活用し、教員個々の資質向上指標に取り組む。また、全国教員研修プラットフォームを活用し、資質向上を図る。 ③スポーツを科学する取り組みから、部活動の効果的な指導法の工夫・改善を図る。	①すべての教員が、自らの目標に向けての研修に取り組み、結果として90%以上の教員が目標達成を実感することができたか。 ②自己評価シートにおける行動プロセス評価のB評価の割合が90%以上となったか。 ③該当部活動の満足度が90%以上となったか。	①情報端末等の活用について、90%以上の教員から目標を達成できたことを確認することができた。 ②自己評価シートのB評価の割合は90%以上となり目標を達成することができた。 ③該当部活動の満足度、88%となり、ほぼ目標を達成することができた。	B	・ICTについては、活用する教員の意識も年々高まってきているので、より効果的な活用方法を研修会等で推進していく。 ・全国教員プラットフォームの活用について、昨年より定着してきているので、更に視野を広げ、様々な分野を開拓し積極的な研修に繋げていく。	・保護者からの意見として、小学校に比べて、タブレット端末の活用率が低いとの声を聞く。この点については、今後の改善が必要である。タブレット端末の活用を促進する研修を検討することが重要である。